

昭和の町 概要

豊後高田の「昭和の町」(Showa town)は市の懐かしの商店街で、昭和30年代(1955年～1964年)の雰囲気再現しています。通りには地元の方達や豊後高田に入ってくる来訪者が今も日々利用しています。昭和の町は8つのエリアに分かれており、合計約40店舗のお店が入っています。訪れた方は途中専門店や見どころスポットに立ち寄りながら30分ほどで全域をまわれます。この近辺最古のお店は100年以上続いており、その傍ら新店舗も続々仲間入りしています。

江戸時代(1603年～1867年)から明治時代(1868年～1912年)、大正時代(1912年～1926年)、そして昭和30年代(1955年～1964年)にかけて、豊後高田の中央商店街は国東半島で栄えた地域でした。豊後高田市は江戸時代より海上運輸の拠点となっており、昭和初期(1945年～1989年)には数々の運搬船が関西地域に向かう途中で停泊していました。海岸部と近くの宇佐の恩恵を受け、半島内部の要衝とされた豊後高田には、5本の幹線道路が集まっていました。しかし、年月の流れとともに豊後高田は徐々に近代化の波に飲まれ、だんだんと孤立し侘しくなりました。

一見瀕死の商店街でしたが、昭和30年代の活気を蘇らせようと、あるプロジェクトが立ち上げられました。これが2001年に始動した「昭和の町」の取り組みで、歴史ある商店街に新たな命を吹きこみ7店舗が昭和の町認定店に指定されました。今では、40店舗が参加しています。

豊後高田の昭和の町には今では年間約40万人が訪れ、お店を構える人たちの温かい歓迎の心が昭和精神を息づかせています。来訪者はまるでタイムスリップしたかのように感じ、歴史を左右した時代においていかに日本の現代のライフスタイルや文化の土台が築き上げられたかを目にすることができます。このアイコンックな商店街の店々やレストランで受ける温かい待遇に、誰もがこの独特な地域を探検・体験しようと感化されます。